



学力向上を一層推進するために

～令和5年度新潟市学力実態調査(CRT)の結果を受けて～

この調査は次のことを目的として実施しています。

- ① 実施対象の生徒の学力実態を把握し、定着の改善を図ること
- ② 各教科の授業改善を推進すること

1月に理科と英語を実施し、2月下旬に各校へ結果が送付されました。上記の目的に照らし、各校で分析が進んでいることと思います。

今回の調査を受けている2年生は、残り1年間で義務教育を終えます。今回の調査結果を基に、日々の授業で、生徒たちに確実に資質・能力を育成していく必要があります。

そこで、各校での取組の一助になればと考え、下に各教科の課題と取組例をお示しました。ご活用ください。



理 科

市全体で目標値を下回った問題は8問で、その内7問が「知識・技能」をみる問題でした（下表参照）。

領域	問題番号	観点	問題のねらい	市正答率	目標値	目標値との差
粒子	2(1)①	知・技	燃焼について理解している。	44.9	50.0	- 5.1
	2(2)	知・技	原子・分子の π を表した図から、化学反応式をつくらることができる。	23.4	30.0	- 6.6
	3(1)②	知・技	質量保存の法則について理解している。	67.2	75.0	- 7.8
	11(2)①	知・技	オームの法則について理解している。	70.4	80.0	- 9.6
	11(3)	思・判・表	抵抗を並列につないだときの合成抵抗を求めることができる。	23.1	30.0	- 6.9
生命	5(2)②	知・技	葉緑体について理解している。	71.0	80.0	- 9.0
	6(3)	知・技	道管について理解している。	48.7	55.0	- 6.3
	7(2)	知・技	タンパク質は胃液中のペプシンによって分解されることを理解している。	42.2	50.0	- 7.8

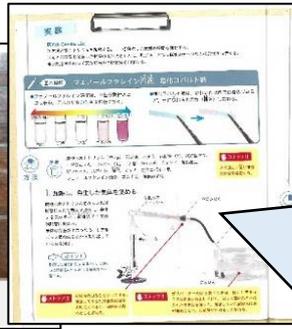
昨年度も「知識・技能」の定着が課題となりましたが、**今年度は目標値との差が昨年度よりも縮まりました**。先生方が授業改善に取り組んできた成果が現れているといえます。

今回の調査で定着が不十分であった内容は指導し直すとともに、「知識・技能」が育成できるように授業を工夫していきましょう。



【取組例】教科書や映像教材等を活用し、**「知識」の内容を確認する**

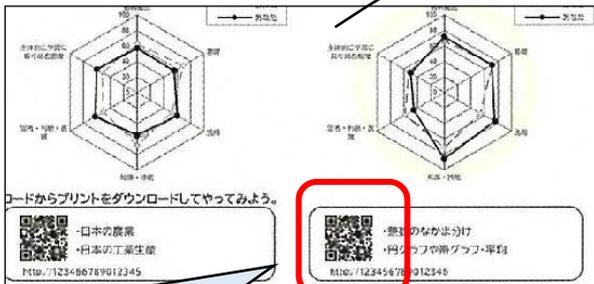
学校で



「ただ読ませる／観せる」と受け身になります。途中で「これは、どんなことを利用した実験でしたか？」「このはたらきは何といいますか？」等、学習済みのことを問い掛けていくと効果的です。その際、**周囲と伝え合うなど、全員が学習済みの知識・技能を表現できるように工夫**することで、より効果があがります。

家庭で

生徒配付用の「個人票」



赤枠部分のQRコードを読み込むと、個々の実態に応じた復習用ワークシート（PDF）がダウンロードできます。家庭学習等で取り組ませることも考えられます。

教科書の「Can-Do List」ページにあるQRコードから、授業や家庭学習で復習問題に取り組みさせることができます。その際、**提示される問題のまねをして自分で問題を作るなど、知識・技能を活用する家庭学習の取り組み方を指導**すると効果的です。

Point

【取組例】「仮説」「計画」「考察」等の過程で**学習済みの知識・技能の活用を充実**させる

☆例えば、「植物と養分」の場面で・・・

見通し

仮説

計画

つづく・・・

葉の色の薄い部分では、日光を当ててもヨウ素デンプン反応が見られないことから、どんなことがいえるのですか。

デンプンは、葉の緑色の部分でできるということだ。

細胞の中に緑色の粒があったよね。あの粒が関係していると思う。

確かに、細胞の中に緑色の粒がありましたね。その粒は何という名前だったでしょうか。

葉緑体という名前だったよ。日光が当たると、葉緑体でデンプンができるんじゃないかな。

本当に、葉緑体でデンプンができるのかを調べるためには、どんな条件をそろえたり、変えたりするとよいでしょうか。

そろえる条件として、同じ個体で実験しないといけないよね。

日光を当てる時間もそろえないといけないね。そして、変える条件として、日光を当てる部分と当てない部分の葉緑体を調べないといけないね。

生徒が見通しをもてるように、資料の提示や発問を工夫します。

定着していない学習済みの用語は、その都度確認します。

単元後半では、知識・技能の活用の仕方が分かってきています。班や個人で考える形態を的確に取り入れることが効果的です。

英語

市全体で目標値を下回った問題は 11 問で、その内 7 問が「知識・技能」をみる問題でした（下表参照）。

領域	問題番号	観点	問題のねらい	市正答率	目標値	目標値との差
聞く	1(3)	知・技	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している（位置の表し方）。	74.9	85.0	- 10.1
	2(1)	知・技	対話を聞き、その意味を理解して適切に応答している（相手の週末の予定を聞いて）。	48.1	60.0	- 11.9
	4	思・判・表	対話から必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答えている。	12.5	25.0	- 12.5
読む	6(1)①	知・技	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している（疑問詞 where）。	69.1	75.0	- 5.9
	6(1)④	知・技	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している（動名詞）。	53.7	60.0	- 6.3
	8(4)	思・判・表	メールを読み、その要点を捉えて自分の考えを書いている。	9.8	25.0	- 15.2
書く	9(1)	知・技	文の語順を理解し、正確に書いている（不定詞の形容詞的用法）。	19.4	25.0	- 5.6
	9(3)	知・技	文の語順を理解し、正確に書いている（接続詞 if の文）。	19.9	25.0	- 5.1
	9(4)	知・技	文の語順を理解し、正確に書いている（there is の疑問文）。	39.7	45.0	- 5.3
	10(1)	思・判・表	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている（when を使って時をたずねる）。	13.3	25.0	- 11.7
	11	思・判・表	自由な時間にする好きなことについて、まとまった内容を紹介する英文を、相手に伝わるように書いている。	37.3	50.0	- 12.7

英文を聞いたり読んだりして、**内容を理解したり要点をとらえたりすることはできていました**。一方、自分の意見や話の流れに合う英語を「書くこと」の問題では、正答率が伸びなかったことに加え、無解答率が3割を超えました。「何を書いているかわからない（アイデアがない）」ことや、「どう書いているかわからない（適切な英語表現が定着していない）」ことが考えられます。

そこで、授業改善のポイントとして、

- ①自分の気持ちや考えを英語で表現する「言語活動」を増やすこと
- ②聞いたり読んだりして理解したことや、話した内容を書くことにつなげる「領域統合型」の活動を行うこと

を提案します。以下に①の流れを示します。



Point 【取組例】 自分の気持ちや考えを英語で表現する「言語活動」を増やす

☆例えば、帯活動(やりとり)の場面で・・・

Let's talk about 'This weekend.'

I ... I ... (次は何て言えばよかったんだっけ)。

表現集の通りに言ったけど、自分のことを伝えたいな。

What will you do this weekend?

What will be the 2nd question?

What will you do there? で、そこで何をするかたずねられるね。

話題だけを提示し、使用する言語材料はあえて示さないで臨ませます。

I am going to go AEON.

Who will you go to AEON with? で、誰と行くかたずねられるね。

学習した表現を使えば、いろいろたずねたり答えたりできるね。

机間支援で生徒の実態を把握した上で指導します（中間指導）。

方法1：既習表現を想起させ、生徒とやり取りをする

方法2：その他の表現を引き出す問い掛けをする



今年度の授業日は残りわずかです。今回、定着に課題があった内容については、ぜひ学年末休業中での復習を勧めたり、次年度の授業で計画的に指導し直したりしていきましょう。

また、「知識・技能」の定着には、生徒の「知りたい・学びたい・できたい！」という学びに対する主体的な態度が欠かせません。教師による「教え込み」や「反復」では、定着しないことを教師が十分に理解し、授業改善に取り組む必要があります。

目指すは、生徒が主体的に追求する中で「知識・技能」を定着し、その「知識・技能」を使って次の学習に対して一層主体的に向かう姿です。つまり、主体的に生徒が「使える知識・技能」を積み重ね、その「知識・技能」を使って「思考・判断・表現」することができる授業が求められているのです。

ぜひ、お示しした活動を例として、さらなる授業改善に取り組んでください。